

令和 6 年度

「運営に関する計画」  
(最終評価)

大阪市立東淀中学校  
令和 7 年 3 月

(様式 1 )

大阪市立東淀中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

昨年、5月8日に新型コロナウィルス感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律が5類感染症に移行したことにより、それまでの過去3年間において制限や変更、中止があった学校行事などの取り組みが再開できた。今年度においても、活動制限することなく、感染防止対策は継続しながらも、校内の現状や課題に対して効果的に生徒への支援や改善を実施し、課題解決に向けて学校運営を進めていく。

この数年間は、生活指導面においては学校内外での生徒の問題行動が減少し、一定の規律を保たれた状況で教育活動を遂行することができている。しかしながら、生徒間のSNSに関するトラブルは発生しており、引き続き、いじめなどの防止については、生徒への指導を継続なければならない。また、自ら学習に取り組む姿勢など、生徒の主体的な行動を高めるまでには至っていない。ただ、生徒自身の意識については、アンケート結果から年々向上している。「授業中まじめに学習に取り組んでいる」の質問では、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は48%であるが、2年生は51%、3年生は53%と過半数を超えており、1年生でも39%と比較的に低いながらも、「どちらかといえば、そう思う。」も含めると肯定的な意見としては93%であり、今後の教育活動による改善が期待される。また、「学校に行くのが楽しい。」との質問に肯定的に答える割合は、86%とし、過去3年間の83%を上回る。ただし、「どちらかといえばそう思う」という消極的に肯定する生徒が肯定する生徒全体の中で多くあり、生徒の意識も含め、まだまだ多く改善する余地がある。

不登校生徒は依然として大阪市平均に比べ高い状態にあるものの、「それぞれの立場を思いやれる学級になっている。」において肯定的な意見が85%と一昨年度と比較して改善されており、個に応じた適正な対応から、全体的には改善がみられている。継続して、生徒個人のアセスメントを行い、外部関係機関と連携しながら、校内体制を整え、さらに改善することを目標とし取り組んでいく。また新たな不登校生徒が増加しないように、事前防止につながる仲間づくりを推進していく。

学力面においては、令和5年度の全国学力・学習状況調査や中学生チャレンジテストの本校3年生平均は全ての教科で大阪市平均を下回っている。しかし、2年生では社会が大阪市と大阪府の平均を上回り、数学も大阪府と大阪市の平均に達している。理科も大阪市を上回っている。また、3年生はチャレンジテストの同一母集団において、得点が府平均の7割未満である生徒の割合が改善されている。

これまで外国語教育の中長期的な対策を最大の課題として、外国語教育における小中連携を発展させ、校内でも英語教育に力を注いできた。依然として課題は改善されず、今年度においても、これまでの取り組みを維持しつつ、授業を見直し、「わかる」授業の推進により、基礎学力の定着と個に応じた学力向上を推進していく。それには、学力向上に向けて自学自習の習慣を身に付けさせたい。さらに、考える力と応用力を伸ばし自らの課題解決に向けて成長させたい。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上とする。
- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「自分には良いところがありますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上とする
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査において「将来の夢や目標を持っていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を70%以上とする
- 令和7年度末の校内調査において前年度不登校生徒の改善の割合※を毎年増加させる。

※大阪市教育振興基本計画の不登校への対応より抜粋

前年度不登校であった生徒のうち、不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど総合的な判断により、不登校の状態が改善されたとする人数を把握

- 1 出席日数の増
- 2 ICTの活用等による、本人・保護者と学校がつながる回数の増
- 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査において平均正答率の対全国比を国語・数学とも0.95以上とする。
- 令和7年度の大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を50%以上とする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において体力合計点の平均を男女とも全国平均以上とする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどのICT機器を積極的に利用している」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上とする
- 令和7年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」の項目についての肯定的回率を毎年増加させる。
- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている」に対して肯定的に回答する生徒の割合を40%以上とする。
- 令和7年度末において教員の勤務時間の上限に関する基準2※を満たす教職員の割合を80%以上とする。

※学校園における働き方改革推進プランより

基準2 1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2～6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、を全て満たす。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も、肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を82%以上にする。  
(前年度 80%)

○年度末の校内調査における、不登校の在籍比率を前年度より減少させる。  
(前年度 10.4%)

○年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる  
(前年度 82.0%)

#### 学校園の年度目標

○年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。  
(前年度 60%)

○年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。  
(前年度 79%)

○年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。  
(前年度 保護者 23% 生徒 41%)

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を38%以上にする。  
(前年度 37%)

○中学校チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2%向上させる。  
(前年度 3年 国95% 2年 国90%)

○中学校チャレンジテストにおける、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2%向上させる。  
(前年度 3年 数100% 2年 数93%)

○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度より増加する。  
(前年度 58.0%)

#### 学校園の年度目標

○大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を39%以上とする。  
(前年度 37.9%)

○3年生における英検3級を取得している生徒の割合を30.0%に増加させる。  
(前年度 29.6%)

○年度末の校内生徒アンケートにおいて「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問項目に対して肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。

(前年度 93%)

○令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を前年度よりも向上させる。

(前年度 男子 39.36 女子 43.84)

### 【学びを支える教育環境の充実】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が（ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）、年間授業日の60%以上にする。

【新規設定項目】

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を前年度より増加にする。

(前年度 84%)

### 学校園の年度目標

○年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的に回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。

(前年度 27%)

○年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどのICT機器を積極的に利用している」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を前年度よりも向上させる。

(前年度 54%)

○令和6年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して肯定的に回答する割合を昨年度よりも向上させる。

(前年度 83%)

## 3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標の3つの最重要目標の中で「安心・安全な教育の推進」において、この数年間は生徒の問題行動が減少傾向にあり、授業規律なども一定は保たれており、教育活動を進めるにあたり大きな課題は少ない。しかし、SNSに関連するトラブル等は生徒間に多数発生しており、いじめ防止についても指導を継続しているが、問題事象のケースが多様化、複雑化していることから対応に苦慮するケースが多い。

年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合は78%となり、目標の82%を下回った。学年別では1年が72%、2年が81%、3年が81%となり、特に1年の数値が低く、これまでの問題事象発生件数も多い。要因として、素直に教員の指導に従わない生徒や学校の指導に理解を示さない保護者が比較的多く、改善が見えにくいことがある。

「授業中まじめに学習に取り組んでいる」の質問では、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合は全体では46%となり、学年別では1年が34%、2年が44%、3年が57%となり、やはり1年の数値が低い。しかし、同一母集団で比較してみると、昨年

度から2年は5%、3年は6%の改善がみられる。「どちらかといえばそう思う」を含めた肯定的な回答は88%であり、昨年度の93%から5%下回るもの、高水準は保てている。

「学校に行くのが楽しい」に対し、肯定的な回答は83%と昨年度から3%下回った。学年別では1年が80%、2年が83%、3年が85%となっている。

「それぞれの立場を思いやれる学級になっている。」において肯定的な意見が80%と昨年度から5%下回っている。学年別では1年が69%、2年が82%、3年が88%となっている。以上の結果から、学年が進むごとに改善傾向が見られ、今後の教育活動による改善が期待される。

不登校生徒は依然として大阪市平均に比べ高い状態にある。しかし、今年度より「校内対応教室（ひがよどステップ教室）」を立ち上げ基本的な生活リズムが整っていない怠学的な生徒ではなく、学習意欲はあるが、集団生活に馴染めない生徒が中心に登校し、学習を行っている。教室からのオンライン授業や学習支援のアプリやサプリを活用し、学力保障を行いながら、段階的なスマーチステップを積み重ね、徐々に教室に戻る生徒もいる。また、家庭環境などの事情から不登校傾向にある生徒には個人のアセスメントを行い、外部関係機関と連携しながら、校内体制を整え、さらに改善することを目標とし取り組んでいく。そして、新たな不登校生徒が増加しないように、引き続き、事前防止につながる仲間づくりを推進していく。

3つの最重要目標の中で「未来を切り拓く学力・体力の向上」においては、令和6年度の全国学力・学習状況調査では平均正答率が大阪府に対し、国語が92.9%、数学が99.0%となっている。

大阪中学生チャレンジテストの結果からは

1年生の平均正答率は大阪府に対し、国語は94.9%、数学は84.9%、英語は90.2%であった。大阪市チャレンジテストplusの平均正答率は大阪市に対し、社会は92.0%、理科は84.2%であった。得点分布は国語が20~45点が多く、45~85点が全体的に少ない。85点以上は同じくらいである。数学は10~30点が多く、60~75点が少ない。英語は20~40点と30~50点が多く、85点からは少ない。

2年生の平均正答率が大阪府に対し、国語は89.0%、社会は87.3%、数学は89.2%、理科は79.9%、英語は81.3%であった。得点分布は大阪府と比べ、国語が5~24点や60~70点が多く、80点以上が少ない。数学は15~25点と35~45点が多く、45点以上は全体的に下回っている。英語は25~35点が多く、55点以上は全体的に下回っている。社会は0~40点が全体的に多く、55点以上が全体的に下回っている。理科は10~35点が多く80点以上がかなり少ない。

3年生の国語は対府比で97.1%（対市比97%）。また、同一学年としても令和5年度より約3%の向上。得点分布では府と比較して全体的には同じ傾向であるが、25~29点の割合が多く、95~100点の割合が低い。

社会は対府比で103.4%（対市比104%）。また、同一学年でも約1%の向上。得点分布では、20~29点の割合が低く、30~39点の割合が高く、平均点以下の層が頑張っていると思われる。

数学は対府比で97.7%（対市比98%）。同一学年では100%であり、約2%の減少。得点分布では、高い割合では府を上回り、低い割合では府を下回っている傾向にある。

理科（C問題）は対府比では97.5%（対市比98%）。同一学年では100%であり、約2%の減少。得点分布では、5~9点の割合が高く、10~24点の割合も高い、90~100点の割合が低い。平均点以上の層は頑張っていると思われる。

英語は対府比では90.7%（対市比90%）。同一学年では92%であり、約1%の減少。得点

分布では府と比較し、10～44点の割合が高い。65～69点の割合が極端に低く、80～100点の割合も低い。

得点分布が大阪府平均に対し、10～30点の割合が多い。依然として基礎基本学力の定着が厳しい状況である。しかし、生徒の学習状況に応じた学習教材の作成やキメの細かい指導により、一定の改善は見られる。基礎基本学力の定着を目標として、放課後やテスト前、長期休業期間の学習会の推進を継続し、自学自習の習慣化を定着させたい。また、個別最適な学習を推進するため、デジタルドリルやアプリを活用した家庭学習にもつなげていきたい。

3つの最重要目標の中で「学びを支える教育環境の充実」においては【新規設定項目】として「授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が（ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）、年間授業日の60%以上にする。」は12月末時点で1.6%と目標を大きく下回っている。

また、年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどのICT機器を積極的に利用している」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合は51%と前年度より3%下回っている。学年別では1年が43%、2年が60%、3年が50%と学年での差が大きい。

職員の年次有給休暇を10日以上取得する割合は1月末で51%となっているが、8日以上では、74%となり、目標の84%は十分に可能である。

また、「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的に回答する生徒の割合を昨年度の27%より1%向上されて28%となっている。保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して肯定的に回答する割合も昨年度の83%よりも1%向上されて、84%となっている。

(様式2)  
大阪市立東淀中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった		B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標	達成状況				
<b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b> <b>【安全・安心な教育の推進】</b> 大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標 ○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も、肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を82%以上にする。 【達成× 78%】 (1年: 72%、2年: 81%、3年: 81%)					
○年度末の校内調査における、不登校の在籍比率を前年度より減少させる。 【達成× 12.1%】 (前年度 10.4%)					
○年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる 【達成○ 87.6%】 (前年度 82.0%)					
<b>学校園の年度目標</b> ○年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度60%より増加させる。 【達成× 55%】 (1年: 54%、2年: 52%、3年: 58%)	C				
○年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 【達成○ 80%】 (1年: 72%、2年: 82%、3年: 86%)					
○年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度（保護者23% 生徒41%）より増加させる。 【達成× 保護者21%、生徒35%】 (保護者 1年: 17%、2年: 23%、3年: 24%) (生徒 1年: 24%、2年: 28%、3年: 49%)					

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<b>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</b> いじめの認知をアンケートや日々の観察による早期発見、早期解決を図り、いじめを許さない心を育てていく。	
<b>指標</b> 「いじめについて考える日」を設定して、いじめに関する校長講話と学級活動を行い、いじめを許さない学級・学校づくりについて学校全体で再認識する。 学期に1回いじめアンケートを実施し早期発見、早期解決を図る。 いじめについての全体研修会を年5回以上実施し教職員の共通理解を図り、学年ごとに年3回以上いじめに関する取組を実施する。 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を82%以上にする。	B
<b>取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</b> 生徒の情報交換を密に行い、教職員が生徒理解に努め、問題行動や不登校の未然防止をするとともに早期発見を行う。生徒一人ひとりに寄り添った適切な支援を行うことで、問題行動や不登校の早期解決を図る。	
<b>指標</b> 学年は隨時、週に1回主任会、教職員全体に月1回生徒の情報交換を行う。生徒一人ひとりの実態を把握し、それに応じた指導・支援をするため、学期に1回教職員全体でスクリーニング会議を開催し、必要に応じて外部機関と連携する。 日々生徒理解に努め、「アセス」を活用するとともに年2回以上教育相談を行う。 不登校の生徒において家庭と連携しながら学校に登校できるように支援する。不登校の在籍比率を前年度より減少させ、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。	C
<b>取組内容③【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</b> 自ら危険を回避するために主体的に行動する態度と安全で安心な社会づくりに貢献する態度を育成するため、区や消防署、地域連携して防災・減災教育を推進する。	
<b>指標</b> 「防災・減災カリキュラム」を適宜見直し、年間計画をもとに防災・減災教育を進める。年間2回以上校内で避難訓練を行い、防災意識を高める。区や消防署、地域と連携して防災・減災教育を生徒が主体的に取り組める活動になるよう実施する。 年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。	B
<b>取組内容④【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】</b> 生徒の勤労観や職業観を育てるため3年間を見据えたキャリア教育の計画を作成し、実践する。 経年で職業講話、職場体験、出前授業とつながりを持った取組を行っていくことで将来への具体的な目標を持たせ、自発的な学習意欲と自己肯定感を育んでいく。	B
<b>指標</b>	

キャリアパスポートを活用しながら体系的・系統的にキャリア教育を進めるとともに、企業や団体との連携し、各学年とも年間2時間以上でキャリア教育体験活動を実施して進路選択への意識を高めていく。

年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。

取組内容⑤【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】

人権教育や道徳教育の推進し、道徳心・社会性の育成を図る。さらに、集団行動訓練や活動を通じて、安全に配慮し、自他の生命の尊厳とともに互いの大切さを認め合い、支え合いながら問題解決できる集団づくりを推進する。

指標

人権教育年間指導計画と道徳教育年間指導計画を作成し、計画的に実行する。命の大切さを自他ともに実感できるような取組を系統的に実施する。各学年で生命の大切さを育む授業を年1回以上行う。校内での格差や差別・偏見を生まない環境を整え、学校行事において集団づくりの取り組みを行い、自他の生命と尊厳を互いに尊重し合う態度や自他の人権を守る実践行動につなげることで、年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。

C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取り組み内容①について

- ・「いじめについて考える日」に校長から全校生徒に講話をした。また、学期に1回のいじめアンケートを計画通り実施し、いじめの早期発見、早期解決を図っている。
- ・生徒理解の教職員研修をこれまでに5回実施しており、スクリーニング会議を2回行っている。
- ・各学年の取り組みも進めている

1年：一泊移住、体育的行事の取り組み、文化発表会での取り組み 百人一首大会

集団生活や対人関係にかかわる集会 合唱コンクール

2年：校外学習、体育的行事の取り組み、文化発表会での取り組み、職業体験

3年：修学旅行、体育的行事の取り組み、文化発表会での取り組み、レクリエーション大会

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は82%の目標に対し、78%であった。昨年度よりも2ポイント減少しているが、1年生が72%であり、2年生は81%、3年生が81%となっていることから中学校での取り組みの成果はみられる。3学年とも肯定的な回答は90%あるが、最も肯定的な回答が低下傾向にあり、特に1年生が低下しているため次年度への改善が必要であるため「C」とする。

取り組み内容②

- ・主任会や学年会、職員会議で生徒の情報交換を行っており、全教職員で生徒を見守る体制をとることができている。
- ・1年生は中学校区の3小学校を始め、他校区や他の自治体から入学して、新しい学校生活を経験している。様々な不安などに対し、教育相談を1学期と夏休み直後、3学期の3回実施したことで学級担任が生徒理解を深め、問題の早期発見早期措置を実践している。また1年生で「アセス」を実施し、生徒理解をさらに深めることができた。

- ・ 今年度より不登校対策教室（ひがよどステップ教室）の仕組みを構築し、今年度の新たな利用者は4名で登校状況が改善している生徒もいる。
  - ・ 不登校（年間30日以上欠席）の在籍比率は全体で12.1%であり、昨年度（10.4%）より増加している。しかしながら、年度当初の4月より改善・改善傾向にある生徒は、85.4%と昨年度（58.3%）より増加している。これは担任だけでなく学年や学校全体の組織として不登校生徒への対応を行っている結果だと考えられる。また外部機関と適切に連携することにより改善に向かう生徒も多く、改善している要因の一つであると考えている。
  - ・ 昨年度から不登校が完全に改善した数は64名中12名で18.8%である。また改善傾向も含めた数は、62名中46名で90.6%と昨年度（82.0%）より増加している。
- 以上のことから不登校の割合は増加していたが、改善傾向にある生徒も増えていることから、「B」とする。

#### 取り組み内容③

- ・ 集会などでグランドや体育館で集合する際には、各クラスで整列し、避難経路を通って外に出るようにしており、日ごろから防災に対する意識付けをしている。
- ・ 1学期には地震、2学期に火災を想定した避難訓練を実施した。消防署とも連携し防災・減災教育を行い、体験を交えた学習を行った。
- ・ 校内で危険な行為や事象があった場合は、緊急に集会を行い全校生徒へ注意喚起を行うようにした。

「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合は、55%であり、昨年度（60%）と比べると減少している。肯定的な回答に関しても昨年度（95%）より減少しているが、92%であり、高い水準を保っている。このことから「B」とする。

#### 取り組み内容④

- ・ キャリアパスポートを活用している。また各学年での取り組みも進めている。
- 1年：職業調べ（プレゼン発表も含む） SP トランプ
- 2年：職場体験 3年：自分の将来を考えよう、進路学習

「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合は80%であり、目標の80%を下回るが、1年生が72%、2年生が82%、3年生が86%と学年が上がるにつれ増加している。これは3年間を見通した計画の結果であり、1年生は職業調べ、2年生は職場体験学習の取り組みを行うことで数値が向上しており、目標の数値も到達したため「B」とする。

#### 取り組み内容⑤

- ・ 1年生では一泊移住、2年生は校外学習、3年生では修学旅行を実施し、集団づくりの取り組みを行っている。
- ・ 1. 3年生で命の大切さを育む講話を講師の方を招いて実施した。2年生で性に関する教育を実施した。

「相手の立場を思いやる学級」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合は昨年度（41%）から35%と減少している。しかし修学旅行や様々な行事を自分たちの手で作りあげてきた取り組みを経験した3年生は49%と年度当初より向上している。

1. 2年生の数値が減少傾向にあり改善が必要だと考えるため「C」とする。

## 次年度への改善点

### ○取り組み内容①

- ・**1年生への重点的な指導** 中学校入学直後の1年生へ対し、いじめの問題に関する講話をを行うなどいじめの本質や影響について深く理解させる機会をつくる。
- ・**保護者との連携強化** 保護者向けの情報提供を行い、家庭と学校が一体となりいじめ防止に取り組めるようにしていく。
- ・**評価指標の変更** 1年生は80%以上、2、3年生は昨年度の数値よりも向上させるというように指標を変えてはどうか？

### ○取り組み内容②

- ・**多様な学習方法の導入** ICTを活用したオンライン学習など多様な学習方法を導入し、生徒が自分に合った学び方を選択できるようにする。
- ・**改善を促す** ステップ教室利用者の目標設定を明確にする。
- ・**意識的な支援** 特に年間30～90日の欠席生徒（週に2～3日は来れている生徒）に對し声掛けなどで遅れてでも登校できるように促していく。90日以上欠席生徒に對しては学校とのつながりを途絶えさせないように支援を続ける。

### ○取り組み内容③

- ・**防災訓練の実践的強化** 避難訓練の際に、予定調和ではなく授業中に突然行うなどリアルな状況を設定し、行うことで非常時にも適切に行動できるようになることをめざし、防災意識を向上させる。

### ○取り組み内容⑤

- ・**生徒主体の活動推進** 生徒が主体的に行事に関わり運営することにこだわる。またボランティア活動など生徒主体で企画するなどして、協調性や集団意識を育む。
- ・**評価指標の変更** 「命の大切さや互いの性の尊重、思いやる心の大切さについて考え、学ぶことができている」というアンケート項目を評価指標にいれてはどうか。  
また、生徒アンケート「それぞれの立場を思いやれる“学級”になっている」とあるが、学級ではなく、学年単位の取り組みが多いことから“学年”と変更してはどうか。

## 大阪市立東淀中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標	達成状況		
<b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b>			
大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標			
○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を38%以上にする。 【達成○ 40%】(1年: 32%、2年: 34%、3年: 50%)			
○中学校チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より2%向上させる。 【達成 ×】(3年 国95%⇒97%、2年 国90%⇒89%)			
○中学校チャレンジテストにおける、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より2%向上させる。 【達成 ×】(3年 数100%⇒98%、2年 数88%⇒89%)			
○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度58.0%より増加する 【達成× 54%】(1年: 54%、2年: 56%、3年: 53%)			
<b>学校園の年度目標</b>			
○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を39%以上とする。 【達成○】(前年度 37.9% ⇒ 43.5%)			
○3年生における英検3級を取得している生徒の割合を30.0%に増加させる。 【達成○】(前年度 29.6% ⇒ 35.3%)			
○年度末の校内生徒アンケートにおいて「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問項目に対して肯定的に回答する生徒の割合を前年度93%より増加させる。 【達成○ 93%】(1年: 91%、2年: 92%、3年: 94%)			
○令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を前年度よりも向上させる。 【達成○ 男子40.72 女子44.70】(前年度 男子39.36 女子43.84)			

B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】</b> 習熟度授業など個に応じた学習の推進をするとともに校内で相互参観週間を設け、全教員が研究授業を行うことによって授業改善を意識し、「わかる」「できる」授業を推進し、考える力と応用力を伸ばし自らの課題解決に向けて成長させる。</p>	
<p><b>指標</b> ICT機器の活用や主体的・対話的で深い学びなど課題を持って全教員が必ず研究授業を1回以上行う。授業を伴った校内研修会を実施し授業改善をすることで、年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を37%以上にする。</p>	<b>A</b>
<p><b>取組内容②【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】</b> 各教科、各学年で学力向上に向けた取り組みを進める。各教科において家庭学習課題や長期休業中における学習課題を精選、提供する。学校元気アップ事業や学力向上支援チーム事業を活用して、テスト前学習会や放課後学習会を開催することで学習機会を増やし、自学自習の習慣を身につけさせる。学力向上を進めていく。</p>	<b>B</b>
<p><b>指標</b> 各教科で全市共通テスト等の結果データを分析し、授業で活用するとともに共通テスト前にプレテストや対策学習を実施する。テスト前学習会の実施、放課後学習会を週2回以上開催する。 中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対応比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2%向上させる。</p>	
<p><b>取組内容③【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】</b> 英検を受験することで目的意識を持たせ学ぶ意欲を高める。C-Net講師と連携した実践的な授業を工夫していくとともに、英会話能力を向上させる。 校区3小学校に先生を派遣し、小学校からの英語力の向上を目指す。</p>	
<p><b>指標</b> 3年生対象に英検を校内で実施し受験する。英語の授業においてC-Net講師と連携しながら英検取得の学習を行い支援する。また、英検や3年生大阪市英語力調査における4技能を伸ばすことに特化した授業を年間8時間以上行う。実際に英検3級以上を取得できた生徒の割合を昨年度より向上することを目指し、大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を39%以上にする。 英語教諭を小学校に派遣し、年間100時間程度、校区3小学校での英語授業を行う。</p>	<b>B</b>
<p><b>取組内容④【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】</b> 体育科においてダンスの授業に力を入れ、外部講師とも連携しながら、リズム感の育成と集団育成に役立てていく。</p>	<b>B</b>
<p><b>指標</b> 1、2年生の体育授業において5時間以上ずつダンス講師の授業を行い、年3回以上の校内実技研修を実施し、授業においての成果を発表会の場で表現できるように</p>	

する。年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を58%以上にする。

#### 取組内容⑤【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】

部活動の活性化を図り、体力の向上を目指すとともに、目標や成長の過程を身近なものにすることで、自尊心や達成感を持たせる。

保健体育の授業や体育行事を通じて運動意欲を高め、体力向上を図る。

#### 指標

新入生に部活動への体験入部期間を設け、適正かつ希望する部活動へ入部できるようを行う。部活動指針に従い運営し、プレーヤーズファーストの精神に基づき生徒の意志や成長を最優先に指導することで、年度末の校内生徒アンケートにおいて「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問項目に対して肯定的に回答する生徒の割合を94%以上にする。また、体育大会等の体育行事や日々の授業においてスポーツの楽しさと体力向上を意識させ、参加・活動させることで令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を昨年度よりも向上させる。

B

#### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

##### 【取組内容①について】

- ・後期学校アンケートの「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「思う」の回答が目標値を超えており、故に、「A」の目標を上回って達成したと言える。

##### 【取組内容②について】

- ・「中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対応比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2%向上させる。」という目標に対して、3年の数学では100%から98%に下がったが、国語では95%から97%に向上した。例年の結果より非常に高い数値が出ている。また、2年の国語では90%から89%に下がったが、数学では88%から89%に向上した。故に、「B」とする。

##### 【取組内容③について】

- ・3年生対象に英検を校内で実施し受験した。  
3年生における英検3級を取得している生徒の割合について、前年度は29.6%に対して、今年度は35.3%に向上した。
- ・英語の授業において、C-Net講師と連携しながら実践的な授業を行っている。
- ・英検や3年生大阪市英語力調査における4技能を伸ばすことに特化した授業を行うことができた。

以上のことから、「B」とする。

##### 【取組内容④について】

- ・1、2年生の体育授業において5時間以上ずつダンス講師の授業を実施することができた。また、授業においての成果を発表会の場で表現できるようにした。
- ・後期学校アンケートの「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の質問項目に対して肯定的に回答する生徒の割合は54%と下回っている。これは3年生が53%と低い水準であり、同学年は昨年の全国体力・運動能力、運動習慣調査においても低い水準であった。しかしながら、令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均が昨年度よりも向上している点、10月実施の体育大会での取り組みからスポーツの楽しさや体力の向上に対する意識は向

上していると感じられる。1年生は54%、2年生は56%という数値からも体育大会をはじめ、様々な体育的行事などを取り組んでいることから改善が見通される。そのため、「B」とする。

#### 【取組内容⑤について】

- ・後期学校アンケートの「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問に対して肯定的に回答する生徒の割合が目標値である93%となった。故に、「B」の目標通りに達成したと言える。

#### 次年度への改善点

- ・目標達成のために、日々取り組みを行っているが、昨年度より数値が向上した項目もあれば、目標数値を達成することができない項目もあった。令和7年度も、今年度同様に、目標達成のために、日々の指導を着実に進めていく。

#### 【取組内容①について】

- ・引き続き、校内での研究授業、授業を伴った校内研修会を実施していきたい。「わかる」「できる」授業を推進するために、授業改善を意識し、教員一人ひとりの授業力をさらに向上していくよう努めていく。
- ・生徒一人ひとりが考える力と応用力を伸ばし自らの課題解決に向けて成長できるように、学校全体として生徒一人ひとりの学力向上に向けた取り組み等をより一層実践していきたい。
- ・後期学校アンケートでの「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「思う」の回答が目標値を超えていたが、学年間での数値の差が大きいことも現状として挙げられる。日々の授業や取り組み等を見直し、さらなる数値向上に向けて努力していきたい。

#### 【取組内容②について】

- ・各教科、各学年等で学力向上に向けた取り組みを推進しているが、全市共通テストや定期テスト等を解析し課題を明確にすることで家庭学習課題や長期休業中の課題の充実等を図り、自学自習の習慣を常態化していくことで生徒一人ひとりの学力向上につなげていく。
- ・学校元気アップ事業や学力向上支援チーム事業等と連携を図りながら、生徒一人ひとりの学力向上に向けた取り組みをさらに行っていきたい。

#### 【取組内容③について】

- ・英検を受験することで目的意識を持たせるとともに、英語に対する興味関心や学ぶ意欲を高めていく。
- ・今年度、3年生における英検3級を取得している生徒の割合や大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する3年生の割合（4技能）が向上した。引き続き、英語の授業等において、C-Net講師と連携しながら実践的な授業を行うとともに、英検や3年生大阪市英語力調査における4技能を伸ばすことに特化した授業を積極的に実践していく。

#### 【取組内容④について】

- ・体育大会等の体育行事や日々の授業において、生徒一人ひとりがスポーツの楽しさなど運動意欲を高め、体力向上を意識することができるようさらに創意工夫を行い、実践していく。

#### 【取組内容⑤について】

- ・今後も引き続きプレーヤーズファーストの精神に基づき生徒の意志や成長を最優先に指導することで部活動のさらなる活性化を図り、体力の向上につなげていく。

## 大阪市立東淀中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった		B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
年度目標	達成状況	
<b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b> <b>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標</b> ○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が（ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）、年間授業日の60%以上にする。 【達成× 12月25日時点 1.6%】		
○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を前年度84%より増加にする。 【達成○ 2月末時点60%、8日取得は83%】		
<b>学校園の年度目標</b> ○年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的に回答する生徒の割合を前年度27%よりも向上させる。 【達成○ 28%】（1年：26%、2年：35%、3年：26%）		
○年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどのICT機器を積極的に利用している」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を前年度54%よりも向上させる。 【達成× 51%】（1年：43%、2年：60%、3年：50%）		
○令和6年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して肯定的に回答する割合を前年度83%よりも向上させる。 【達成○ 84%】（1年：84%、2年：82%、3年：86%）		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<b>取組内容①【基本的な方向番号 6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</b> I C T 機器を効果的に利用して、教育の質の向上を目指す。また、デジタル教材の活用で個に応じた学習と主体的な学びの育成を推進する。一人一台端末の使用により生徒の心の状態や日々の状態を可視化することで、いじめや不登校などの未然防止・早期発見につなげる。	C
<b>指標</b> 授業で I C T 機器の利用を進めることができるように環境を整え、授業で I C T 機器の活用を行う。毎日の朝学活において、一人一台端末を活用して、「心の天気」を入力させ、定期的にいじめアンケート等も入力させることで情報を共有し、生徒理解を深める。デジタル教材を活用した朝学活を週 2 回以上実施する。	
<b>取組内容②【基本的な方向番号 7、人材の確保・しなやかな組織づくり】</b> 働き方改革を推進し、教員の長時間勤務の解消をしながら、生徒一人ひとりに対して向き合う時間を確保し、教員が健康的でかつ活気ある職場環境を目指す。	C
<b>指標</b> 毎週水曜日をゆとりの日と設定し、校内月中行事に記載する。実施日には、管理職よりゆとりの日を宣言し連絡黒板に明記する。ゆとりの日においては、原則生徒対応・生活指導対応以外は午後 7 時までの退勤とする。 これまで実施していた長期休業中の学校閉庁日の設定を継続して実施することで有給休暇の取得を促し、年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 85 % 以上にする。	
<b>取組内容③【基本的な方向番号 8、生涯学習の支援】</b> 生徒の読書環境を充実させることで読書を促し、読解力を高める。 生徒による文化委員会の活動を中心に、図書への意識を高め、図書室利用の活性化を図る。図書室の利用を通じて多様な知識を身に付けさせるとともに、広い視野で物事を考える力を養う。	B
<b>指標</b> 今年度内に図書室や学校図書等の活用する方法を議論し、取組を検討し実施する。 定期的に行う文化委員会の活動で図書室利用を促進する方法を議論して取り組む。毎月 1 回図書館だよりを発行し、図書への意識を高める。 年に 1 回リサイクル本フェアを実施し、気軽に図書を手に取ることができる機会を設ける。 年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的に回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。	
<b>取組内容④【基本的な方向番号 9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</b> 学校協議会により保護者や地域住民など学校関係者の意向を反映し、学校運営を行う。学校の情報を広く発信する。学校元気アップ地域本部事業を活用してボランティアによる学校支援を行う。これらの取り組みによって開かれた学校づくりを推進する。	B
<b>指標</b> 学校協議会において運営の計画の策定に意向を反映させる。	

学校ホームページにて積極的に情報を発信して年間閲覧件数を50,000件以上にすることで、年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。学校元気アップ地域本部事業を活用して週2回の放課後学習会、テスト前学習会、週1回の図書室において地域ボランティアを配置することで自主学習支援、図書室の活性化を図る。

#### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

##### 取り組み内容①について

- ・「ICT機器を効果的に利用して、教育の質の向上を目指す」ことについては、現在教室内のICT機器の環境整備を随時進めている。現状は前回の振り返りから変わらない3クラスである。
- ・定期的ないじめアンケートについては、今年度はいじめアンケートをきっかけに問題解決に向けた動きをとることができたなど徐々に活用されるようになってきた。もちろんこれらの活用がなく問題がないことが望ましいが、近年の情報社会に沿った形で情報収集を行うなどさまざまな形で生徒の声を聞くことにつながった。
- ・「心の天気」については、本校においては朝の学活時に行うとしているが、前回同様十分に取り組めてはいない。いじめ問題同様生徒のわずかな気持ちの変化に気づく1つのツールとしてより具体的な策を検討する必要がある。
- ・以上の点からも、本校における一人一台端末の活用は、不十分であると考える。数値としても、目標は「生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の60%以上」に対して、12月末時点で1.6%であるため改めて見ても年度内に目標を達成することはできない。学校独自に指標を見直し、次年度への学習者端末の活用日数が増えるようにしていく必要がある。

以上より不十分要素もあるため「C」とする。しかし、次年度はこれらの反省も踏まえて取り組時間などをより設けるなどをしていきたい。

##### 取り組み内容②について

- ・「教員の長時間勤務の解消」については、管理職から毎週のゆとりの日の呼びかけや閉庁日の設定をし、長時間勤務解消に向けての取り組みは怠らず取り組んでこれた。年度途中の進捗状況は、現状全体の10%であったが1月末時点で51%となっている。また、8日以上の数値は74%となり、年度内の年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合85%をおおむね達成できる見込みである。次年度は働き方改革の観点からも会議の日程を見直すなどの教員の長時間勤務解消を目指す。

以上よりおおむね達成していることから「B」とする。引き続き、次年度はこれらの反省も踏まえて改善していきたい。

##### 取り組み内容③について

- ・昼休みや放課後に図書館司書さんやボランティアの方と連携を取りながら、読書活動の促進を行ってこれた。文化委員会などの図書への取り組みから、生徒アンケートにおける図書室の利用に関する結果は、27%であった昨年度から、現時点で28%（1年：24%→26%、2年：33%→35%、3年：28%→26%）となり、「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的に回答する生徒の割合を昨年度よりも向上された。次年度も、文化委員会などの図書に関わる活動を続けていきたい。

以上よりおおむね達成していることから「B」とする。

#### 取り組み内容④について

・主に教育活動について発信する方法には、ホームページ以外にも各学年が作成する学年だよりや各クラスで作成する学級通信などがある。その中でも中学校にこどもをもたない地域に対して、ホームページは学校のことについて知ってもらうことのできる一番のツールになる。中でも年間閲覧件数を50000件以上とする目標は1月末時点で61705件と目標値を前回よりもさらに上回っている。今年度は1・2年生において保護者が参加可能な行事を実施予定のため、地域にしっかりと学校の様子を伝えることができるとみられる。次年度も同様に保護者へ学校のようすを知ってもらえるような取り組みを充実させることが最優先であると考える。その結果もあり、保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して肯定的に回答する割合も昨年度の83%から84%へ向上している。

以上よりおおむね達成していることから「B」とする。引き続き、次年度はこれらの反省も踏まえて改善していきたい取り組み内容④

・主に教育活動について発信する方法には、ホームページ以外にも各学年が作成する学年だよりや各クラスで作成する学級通信などがある。その中でも中学校にこどもをもたない地域に対して、ホームページは学校のことについて知ってもらうことのできる一番のツールになる。中でも年間閲覧件数を50000件以上とする目標は12月時点で50304件と目標値を上回っていることから「B」とする。今後は、授業参観はないものの体育の授業や合唱コンクールといった異なる方法で生徒の教育活動のようすを見てももらう機会を増やすことによって、学校と保護者とのつながりを維持でき、今後の円滑な教育活動につながると考えられるので、積極的に開かれた学校をめざせるように取り組んでいきたい。

#### 次年度への改善点

・全体を通して、ここ数年の状況の変化を考えると、学校として教育環境の充実に向かた取り組みは積極的に行われてはいるが、目に見える形として現れるのが難しい状況である。令和7年度から次年度に向けて改善すべき点は次のとおりである。

#### 取り組み内容①について

ICT機器整備については、次年度も同様にモニター設置を随時勧めていくこととなっている。次年度以降の数年計画でまずは3年生の教室の全クラス設置を目指す。

いじめアンケートについては、今年度の事象を次年度への活用方法へしっかりと引き継ぎ、改めて教職員へ活用方法を伝えていくことが重要である。

「心の天気」については、今年度よりも取り組みについて教職員全員が向き合えるよう日頃の声掛けが必要である。

#### 取り組み内容②について

教職員の長時間勤務に向けた取り組みとして教職員が行えることとしては、会議の短縮が主に挙げられる。不要な会議をなくすことや単に会議時間を短くするのではなく、よりスマートに会議進行が行えるような段取りを行う必要がある。例えば、事前に会議内容について担当同士で話し合うことや出席者に事前に資料を配布し、意見を集めるなどといった事前準備を行うことなどである。これらが達成できれば、各個人ではなく、学校全体として長時間勤務の解消がなされ、よりよい職場環境につながることと考える。

#### 取り組み内容③について

現状を維持できるように、取り組み内容などを紙面に残すなどをする。

取り組み内容④について

現在の指標には、「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」とあるが、それを見るのは、ホームページの件数のみがその指標となっている。クラスによってもしくは学年によっては学級通信や学年通信を配布しているため、それらも含めていけるような指標とすれば、取り組み④の結果もよりよいものとして考えることができると考える。生徒アンケートや保護者アンケートの項目にホームページとだけせずに現在行っている取り組みについても来年度は1つ項目や質問内容に加えてもよいと考える。